



コメ勉が訊く! 聴く! 効く!

インタビュー from 「コメダde勉強会&相談会」
Powered by 澤田かおる行政書士事務所
(☎072-488-7304)

子育て支援ボランティア団体 NPO法人「ここからkit」さんにお話をお伺いしました。



(平成28年4月9日取材)

(澤田)
子育て中の行政書士、澤田郁です。
私も子を持つ母ですので、子供のことや、小さな子供を抱えたお母さんのことは、とても身近に感じますし、そのお母さんが抱える不安を、少しでも取り除きたいという思いがあります。
私もたくさん助けていただきました。
ですから、もし、疲れていたり、悩んでいたり、不安な気持ちでいるお母さんがいたら、
「こんな支援制度がありますよ」
「こういうサービスを利用してみたら」
「ここに行けば相談にのってくれますよ」
という情報をお伝えできる行政書士でありたいと思っています。
そのためには、私もより詳しく、子育て支援のことを知る必要があります。
そう思っています、本日はインタビューに伺いました。子育て支援NPO法人「ここからkit」の代表、「おはなさん」こと長谷川秀美さんにお話をお聞きます。
よろしくお願いします。

(おはなさん)
ここからkitの長谷川です。よろしくお願いします。

(澤田)

先日はラジオに出演させていただき、本当にありがとうございました。

(おはなさん)

いえいえ、こちらこそ、大事な話をさせていただきありがとうございました。

※長谷川さんはラジオ番組のパーソナリティをされていて、私は先日その番組に出演させていただきました。

詳しくはこちら→http://gyosei-kaoru.com/info/4-3radio_kosodatehot/



(澤田)

あらためてお聞きしますが、「ここからkit」さんはどんな団体なのですか？

(おはなさん)

「地域で、みんなで子育てしよう」という子育て支援ボランティア団体です。

ここからkit、という名前には、

『ここ』 = 個々 此处

『から』 = collar 十人十色

『kit』 = keep in touch (ずっとつながっていよう)

という意味が込められています。

「人と人との出会いや、お互いを認め合いながらつながりの大切さを伝えたい！」という思いが詰まっています。

「地域の中での子育て」と言いましたが、子どもの育ちにとって、地域とのつながりは不可欠だと感じます。

そこで、「そんな縁を大切にしたい！」と集まったママ・パパ、そして子育ての先輩たちで、できる人ができるときに、関わりながら「あったらいいな！」をかたちにしていく「場」が、ここからKitです。

個々で、いろいろな子育て支援の活動をしてきた人が集まって、平成26年9月にNPO法人となりました。

(関連リンク)

ここからKitさんのホームページ

<http://www.egaodekit.net/>

ここからKitさんのfacebookページ

<http://www.homestartjapan.org/>

ここからKitさんのブログ

<http://coco-color-kit.hatenablog.com/>

(澤田)

どのような活動をされているのですか？

(おはなさん)

南海本線岸和田南口すぐのビルの1階にあります、「ころころはうす」という場所が活動の拠点になっています。

「子どもと親が、いつでも、だれでも、気軽に立ち寄り、自由に過ごせる〈常設〉の居場所」というコンセプトで、この場所を一般に開放しています。

具体的には、

★ころころはうすでの親子cafe「ふらっとcafe」

★自由に乳幼児のおむつ替えや授乳が行えるスペース「赤ちゃんステーション」

★赤ちゃんから、小学校3年生までのお子さんを、数時間お預かりする「一時預かり保育」

★ほかの団体さん(セルフサポート one by one さん、幼児教室ラポムさん、など)と一緒に「親子の癒しのスペース」の提案という活動をしています。

親子カフェは、月・水・木・金の週4日に開設し、土曜日は月に1回開設しています。

お気軽にお立ち寄りください。



(澤田)

スタッフの皆さんはどんな方たちですか？

(おはなさん)

子育ての経験があり、今までにもいろいろな子育て支援活動をしてきた仲間が集まっています。

NPO法人の運営スタッフだけでなく、ボランティアさんたちの力をたくさん頂いています。

そもそもが、スタッフと利用者という関係ではなく、みんなで一緒に子育てしようというのが、ここから kit の活動の基本ですので、そういう雰囲気の中で素敵に活動できていると思っています。



(澤田)

どうしてこのような活動をしようと思われたのですか？

(おはなさん)

私は以前から、岸和田市の公民館で開催している「家庭教育学級」に参加したり、社会教育指導員や公民館長を務めたりと、子供・子育てに関する活動をしていて、その中で「地域の中での子育ての重要性」を再認識しました。

岸和田市には、子育てサロンなどの子育て支援スペースがとてもたくさんあるのですが、色々と事情があって開設日や時間が限られていて、〈常設〉でお母さんと子供が集まって過ごせる場所がなかったのです。

子育てを始めたばかりのお母さんたちは、一人で不安を抱えて悩む人も少なくないので、少しでも多くの時間を、今、子育てをしているお母さんたちや、子育て経験者と一緒に過ごせる場が必要だと実感しました。

しかし、そういったニーズがその頃はまだ理解されにくい時代だったので、その部分にスポットが当たらず支援の手も行き届いていなかったのです。

このような制度の隙間を埋めるべく、常設の居場所として「親子ひろば」を開設しました。

(澤田)

私も常々、気軽に相談できる人がそばにいればいいなあ、と思いながら子育てをしていました。なのでとてもそのニーズに共感します。

(澤田)

今の岸和田市の子育て支援についてどう思われますか？

(おはなさん)

市のできることにやはり限界があります。現在、保育所の待機児童の問題があります。

待機児童は多いです。

どこの保育所にも入れなければ、結局、無認可の託児所に入れるしかないけれど、経済的な負担は大きいです。

育休明け復帰の体制が整っている職場に勤める人はずっと戻れるが、急に働かないといけなくなった人は大変です。

準備ができない。

それなりの所得を改善したらママは働かなくてもいいということになるので、根本的にそういうところから変えるべきとは思いますが、それでも色んなお母さんがいて、やっぱり働きたいと願うお母さんもいるし、難しい問題である。

そもそも単に保育所を増やせばいいという話ではないと思います。

経済的や環境的に恵まれている人はいいけど、一人で悩みや想いを抱え込んでしまっている若いお母さんはいて、結局それが原因で夫婦仲が悪くなったり、子供に当たったりする悪循環に陥ったりしています。

何とかならないか、せめてそういう人の話を聞くことはできないか、という「スキマの支援」が今の制度には必要だと思っています。そういう「現場の声」を届けられればと思っています。

(澤田)

ボランティア団体運営の裏側みたいなことを聞かせてもらってもいいですか？

(おはなさん)

NPO法人として活動していますが、正直、資金は厳しいです。

助成金はありますが、使い道が限られているものが多いのです。

もちろん、申請しても、もらえないことがあります。

結局は受益者負担になってしまいます。

「ふらっとカフェ」は登録料と使用料を頂いていますが、それで間に合うわけでは
ありません。

正会員・賛助会員を募って会費を頂く、企業の寄付金で賄う、ということも考え

て、CSR活動をしている会社に協力をお願いして回ろうかと考えていますが、NPO法人としてのスタッフが少ないので、な
かなか外に出れない、回り切れていないというのが現実です。

心無い人たちから「ええ身分やな～」と言われることも多いです。

ボランティアだけお金を生みだしていかないといけない、きちんと収益事業で得たお金でボランティア事業を支えていかな
ければならない、ということがあまり知られていないのが現状です。

裕福ではないがそうは思われたい。

NPO法人で活動していると、そう思われる側面はあるかも知れません。

難しい問題です。



(澤田)

形になって成果が見えているものはありますか？

(おはなさん)

一回来てくれたお母さんが、違うお母さんを連れてきてくれることが多くなってきました。

必要だと思ったものは、やっぱり必要とされているんだな、と実感できる瞬間です。

(澤田)

長谷川さんご自身についてお聞きしてもいいですか？

(おはなさん)

私自身もまだ子育て中です。

22歳、短大生、中学2年の子どもがいます。

学生時代から人形劇に打ち込んでいて、出産後も人形劇クラブで活動していました。

泉佐野に住んでいた、子どもが6か月ぐらいの頃のことですが、人形劇を演じて保育園で発表したりしていて、そういうこと
で育児ストレスを発散できたのではないかと、今では思っています。

岸和田に引っ越してきて、人形劇のサークルを岸和田で探したときに、「小さいお子さんを連れてる人いないから」と言われ
て入団を断られた時、じゃあ自分で作ろうと思って人形劇サークルを作り、そこで活動をしていました。

子供がいるからできない、ではなく、子供がいるからこそ出来ること、というのがあります。

私自身、公民館での家庭教育学級を通じて「学び」に触れ、今があると思っています。

思い返してみると、身近にも、子育てで悩んでいる人はいました。

自分も子育てで不安に思うことはありました。

明るそうに見えても「しんどい」を抱えている人はいます。

しんどいお母さん、というのをとてもリアルに感じます。

だからこそ、子育ての支援は必要だと思い、「ここからkit」を立ち上げたのです。

自分が「こうだったらいいな～、こういうのがあったらいいな～」と思ったことを、

「ここから kit」で届けられるよう活動しています。



(澤田)

「ころころはうす」の他にはどのような活動をされてきましたか？

(おはなさん)

平成27年度から新しい子ども・子育て支援制度が始まったのですが、それに先駆けて、平成26年の1月に、新制度についての勉強会をいずみ市民生協や岸和田市社会福祉協議会の力をお借りして開催しました。

また、市民が企画・提案して実施する岸和田市平成27年度学び舎プログラム「まちづくり実践プロジェクト」の委託事業として、「子育て支援傾聴ボランティア養成講座(全5回)」を開講しました。

その他には、ころころはうす内で、

★虐待防止の講座

★ベビーマッサージ講座

★赤ちゃん向け人形劇の鑑賞会

★親子で歌って楽しめる、ファミリーコンサート

★赤ちゃんとリフレッシュ体操

★毎月のお楽しみ会・お話し会・手作り工作

というイベントを開催し、親子が笑顔になれるような、趣味を活かせるような、ママ達がリフレッシュできるような、講座を開いてきました。

そして、先ほどお話した「子育て支援傾聴ボランティア養成講座」を通じて、また日々のころころはうす内でのコミュニケーションを通じて、お母さんたちに寄り添って声を聞く・聴くことはできる、聴いてもらうとお母さんたちはすぐリフレッシュできる、という「子育て支援傾聴」の大切さを強く感じ、新しい事業として、「岸和田独自の、家庭訪問型支援」を立ち上げようと企画検討中です。

(澤田)

その、「岸和田独自の家庭訪問型支援」について詳しく聞かせてください。

(おはなさん)

「しんどい」を抱えている人に、ピンポイントで支援がきちんと届いているか？ という疑問はいつも持っています。支援があることを知っている人はその支援を受けることができるが、支援があることを知らないお母さんはそのまま抱え込んでしまい、事件になることもあります。支援があることを知っている、そこに近づくことに抵抗を感じてしまい、受けられる支援を受けないまま、しかし

「いいお母さんにならないかん」と悶々として、一人で「しんどい」を抱え込んでしまう人もいます。

今の若いお母さんたちを見ていて思うのですが、まわりに合わせなければいけない感、一緒がいい感がすごいです。

逆に、あんまり関わったらめんどくさいから、繋がること自体がしんどいから、と最初からシャッターおろしてしまう人も多いです。

仲良くなってしまうといいけど、それまでに人と人との交流を煩わしいとかしんどいとか、そういうふうになっているのかなとも思います。

相談に乗って対処方法を教えるというような重たいことはできないけれど、はじめの一步さえ踏み出せば話をする事ができる心軽くなるというお母さん支援をしたいと思っています。

それ以上は辛いというお母さんを、専門職につなぐというのも、大事な役割だとも考えています。

だって、いきなり専門職に相談するというのは敷居が高いけど、近所のおばちゃんになら話しやすいでしょ。

そういう違いはあっていいと思うので、その間をつなげられればと思っています。

本当に、色んなお母さんがいます。

まだ岸和田にはこのような一人ひとりに目を向けた支援が少ないのです。

訪問支援、行政とつなげるということを考えると、民間保育園の「スマイルサポーター」の制度がありますが、保育園の先生も忙しいので、十分な対応は望めません。

つまり、支援はあるけど活用できていない、支援が必要と分かっているけどうまく活用できていない、というのが現実です。

今あるものと同じ支援はしても「スキマ」を埋めることができないので、ないところを補う、ないなら作る、ということで、独自の家庭訪問型子育て支援事業を岸和田で始めたいと思いました。

NPO ができることと、行政ができることは、それぞれあります。



こちらとしては、まず助成金を活用して動き出し、どれだけニーズがあるかも含めて実践してみて、その実績を行政に見てもらい、いずれは市と協働したいと思っています。

やはり長く続けようと思ったら、お金も人も、NPOやボランティアでは限界があるのです。

だからこそ、ずっと支援を届け続けられるよう、行政と協働という形にしたいのです。

「待つ支援から 届ける支援へ」をスローガンに、「岸和田独自の家庭訪問型子育て支援事業」をがんばりたいと思っています。

(関連リンク)

「笑顔でつながる訪問型支援ボランティア」のブログ

coco-color-kit.hatenadiary.com

(澤田)

スタッフの方たちにもお話を伺います。

「つーさん」こと津山さんと、「あおちゃん」こと青木さんです。

よろしくお願いします。

(つーさん)

よろしくお願いします。

(あおちゃん)

お願いします。

(澤田)

お二人はいつも「ころころはうす」にいらっしゃるんですか？

(つーさん)

はい。ほとんどいつもいます。

いつもいて、現場の仕事というか、お母さんや子供の相手もするし、私は法人の会計や事務作業などの裏方仕事もします。

NPOの会員になっていただいた方から、お金をいただいたりなどします。

(あおちゃん)

私は「おせっかいなおばちゃん」を担当しています。

スタッフだけど、裏方とか表に立つ仕事ではなく、「現場」で子供の世話をしたりするおばちゃんです。

(澤田)

お二人のほかにも、いろいろな方がいらっしゃいますね。

(つーさん)

この「ころころはうす」には、スタッフのほかにボランティアさんに来ていただいています。

ボランティアさんも仕事を持っていて、仕事の合間に来てくださったり、午前中だけとか、何曜日だけという方、時間の空いている時に来てくださる方、などがいらっしゃいます。

(りーさん)

仕事の合間にやってきて、お手伝いをしています。

できる範囲で、できることを、と思っています。

そういう状況なので、なかなかみんなが揃うことはないのですが、今日はたまたま全員がそろって、人数が多く集まりました。

今は、絵本にカバーを付けたり、飾り付けを作ったりしています。



(澤田)
いろいろな方の協力があつての「ころころはうす」なのですね。

(あおちゃん)
ここからkitのメンバー全員で「チームおせっかい」です。

(つーさん)
ボランティアさんの人数も日によって違うし、もちろん利用者の数も日によって違います。
例えば、天気の悪い日など、今日は誰も来ないだろうな～という日でも、お母さんとお子さんと来てくださったりします。
この前のすごい風の日も、誰も来ないと思ってたら、いらっしやいました。
ボランティアさんは、個人的につながりのある方もいますが、社協さんが積極的に募集をかけてくださるので、ここからの紹介が多いです。
「市民ボランティア養成講座」を受けて、ここから来てくださる方もいます。



(ボランティアさん)
私は、昨年夏の、社会福祉協議会のボランティア養成講座を受けて、その後ここに来させてもらうようになりました。
私には子供がいないので、こういうところで赤ちゃんとお接することで、こちらでも得られるものがあると思っています。
姪っ子や甥っ子はいるけれど、いつも会えるわけではないので、やはりここで会えるのは嬉しいです。

(澤田)
ジュース、とてもおいしかったです。いつもこうして、何か作ってらっしゃるんですか？

(ボランティアさん)
お菓子を作るのが好きなので、気が向いたときに作っては、みんなに食べてもらっています。
プロでも何でもないの、趣味で作ったお菓子ですが。
今日は安くて美味しいイチゴがたくさん手に入ったので、思い立ってイチゴジュースを作りに来ました。

(あおちゃん)
思い立った時に、来てくれるって、とっても嬉しいです。
そういうのが「親子ひろば」のいいところです。

(つーさん)
ここは、長時間いられるし、駅も近いし、コンビニもあるし、お昼ご飯も食べられるし、そこが特徴です。
お母さんがコンビニに行くくらいなら、その間お子さんを見ているということもできます。
そうやって利用していただいています。



(あおちゃん)
お母さんのかわりに抱っこしたり、お母さんがちょっと離れた時にお世話をしたり、お節介なことをしています。
こういう「おせっかいおばちゃん」は、いていいと思うし、必要だと思っています。

(つーさん)
お子さんが眠くなったら布団もあるし、お昼寝してる間にちょっとお茶やコーヒーでも飲んで、私たちが話してもらって、ほっとする時間だと思えます。

(澤田)
皆さん、ここで楽しく過ごしているようですが、ここはどんな場所ですか？

(つーさん)
私共としても、大変なことも多いですが、ここで活動するのはとても楽しいです。
何より、赤ちゃんが歩き出す姿を、お父さんより早く見られるのが嬉しいです。
今までに、そういうことが何度もありました。
歩きだしそうな子を見ると、応援したくなって。
だから、とても貴重な、いい場面に立ち会うことができます。

(あおちゃん)
一緒にお喋りしたりお世話したり、みんなと一緒に笑顔になれる場所です。



(澤田)

遊びに来ていたママさんたちにもお話を聞きます。

ここに来るきっかけは何だったのですか？

(Nちゃん(1歳)のお母さん)

家がすぐ近くなのです。

たまたま、郵便局に行った帰りに、ここの前を通りかかって、このような場所があることを知りました。

これはもう運命だったと思っています。

それから、良くここへ遊びに来ます。



(Eくん(1歳)のお母さん)

友達がここを知っていたので、いつも一緒に来ていました。

友達の家に車を止めさせてもらってきていたけれど、その友達が4月から仕事復帰したので、今日は初めて、親子二人で、自転車に乗ってきました。

家が少し遠いので、いつも車だったのですが。

市内のほかの場所にあるサロンにも通ったりします。

いろんな場所に行って、気に入ったところが決まってくるので、そこに通うようになって、その一つがここです。



(澤田)

「親子ひろば」はいかがですか？

(Nちゃん(1歳)のお母さん)

ここは、広くて平らなスペースがあるので、それがいいと思っています。

もうすぐ歩き出そうかという時期なので、家だとどうしても狭くなるし、いろんなものが置いてあるので、危ないと思うときもあります。

ここだと、広々としているので、ぶつかる心配が少なく、安心して遊べます。

(Eくん(1歳)のお母さん)

ここはご飯も食べられるし、布団もあるのでお昼寝もできます。

コンビニも近いし、長い間過ごせます。

こういう場で、一人っ子でも、ほかの家の子と兄弟姉妹のようになれます。



(Nちゃん(1歳)のお母さん)

子供も親もみんな一緒にお片付けするっていうのが、気持ちも体も、とっても楽です。

それと、大人の目が多くて安心ということもありますね。

(Eくん(1歳)のお母さん)

他のママさんたちと一緒に子どもたちの面倒を見ることで、自分のしつけが足りているのか、足りなくて甘いのか、というのを肌で感じられて、とても安心します。



(澤田)

本日は、ここからkitの代表の長谷川さん、スタッフさん、ボランティアさん、利用者さんにお話を伺いました。

皆さんの笑顔が印象的でした。もちろん、遊びにきているお子さんも笑顔いっぱいでした。

お話を伺っている間、長谷川さんの熱い思いがとても強く伝わってきました。

私にも子供がいますが、もう5歳なので、赤ちゃんではありません。

そのころのことを思い出し、また小さくならないだろうか、また抱っこの日を送りたいな、と懐かしく思いましたが、そう思えるのは、無事にここまで大きくなってくれた今があるからです。

ここまでくるには、本当にいろいろな方に助けていただいたからなのだな、と改めて実感しました。

こうして助けていただいた経験があるので、このような支援は必要だと思いますし、一人でも多くのお母さんが、ここにこうした支援があるということを知って、支援を受けてほしいと思います。そして、笑顔が子育てをしてほしいと思います。

最後になりましたが、ここからkitさんの理念が伝わり、子育て支援の環境が充実しますように、とお祈りしています。



おわり

(文)

行政書士 澤田 郁

(写真・構成)

行政書士 中村道彦

私たち「コメダ勉強会 & 相談会」は、勉強会の準備のために、とても詳しく取材をします。

ですから、このような形で、取材そのものを記事にして、「訊く！ 聴く！ 効く！」をコンセプトに、様々な情報をみなさんへお届けしたいと思っています。

取材させていただいた際に、記事にしていいかどうかをお伺いすることがありますので、その時は、ご協力をいただければ幸いです。

よろしくお願い申し上げます。